

BOM for Windows Ver.6.0 SR2

BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2019.11.15

リリースノート

このドキュメントでは、BOM for Windows Ver.6.0 SR2 Rollup Package 2019.11.15 によって適用される脆弱性対応、仕様変更、不具合修正および、制限事項などの内容についてご案内しています。

なお本 Rollup Package には、2018 年 11 月 9 日公開の「BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2018.10.31」をはじめ、BOM for Windows Ver.6.0 SR2 リリース以降に公開された各種更新モジュールが、一部(※)を除いて含まれています。

- ※ 以下は本 Rollup Package に含まれておりません。
- ・「BOM Report オプション Ver.6.0 SR2 用修正モジュール」(2016 年 9 月 9 日公開)
 - ・「BOM for Windows Ver.6.0 SR2 拡張モジュール」(2016 年 12 月 22 日公開)の「BOM Report オプションの刷新」および、これに関連するレポート用テンプレート、Report オプションデザインファイル仕様書

■ 注意・制限事項 ■	2
1. 本 Rollup Package が適用外となる OS、環境	2
2. Windows Server 2008、Windows Vista で集中監視 Web サービスを利用している環境について	2
3. OpenSSL の更新に伴う影響について	3
4. 集中監視 Web サービスにアクセスできない OS について	3
5. 「パフォーマンスカウンター監視」で失敗と判定されるケースが増える	3
6. 「BOM for Windows Ver.6.0 SR2 拡張モジュール」の適用について	3
7. アンインストールで削除されないファイルについて	3
8. Red Hat Enterprise Linux 7.1 以降のインベントリ情報取得について	3
9. プロセスリスト監視の除外プロセスの変更について	4
■ 脆弱性対応 ■	4
1. OpenSSL を更新	4
■ 機能更新/不具合修正 ■	4
1. 集中監視 Web サービスで操作時に SQL エラーが記録される	4
2. 「パフォーマンスカウンター監視」で監視失敗が検知されない	4
3. アーカイブデータ送信(カスタムアクション)がエラーコード 0xFFFFFFF E で失敗する	4
■ その他 ■	4
1. AdoptOpenJDK 8 への移行を実施	4
■ 公開済みモジュール (Rollup Package) ■	5
1. BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2018.10.31	5
■ 公開済みモジュール (脆弱性対応) ■	5
1. OpenSSL 脆弱性(CVE-2019-1559)対応モジュール	5
■ 公開済みモジュール (不具合修正) ■	5
1. Linux オプション Ver.6.0 SR2 向け Monitorlet 修正モジュール	5
2. BOM Report オプション Ver.6.0 SR2 用修正モジュール	5

■■■ BOM for Windows Ver.6.0 更新履歴 ■■■

- 2013年 06月 BOM for Windows Ver. 6.0 リリース
- 2014年 02月 BOM for Windows Ver. 6.0 SNMP トラップ受信機能 拡張モジュール リリース
- 2014年 04月 BOM 6.0 Rollup Package 2014. 4. 1 リリース
- 2014年 04月 BOM 6.0 Rollup Package 2014. 4. 15 リリース
- 2014年 10月 BOM for Windows Ver. 6.0 SR1 / BOM SQL Server オプション 6.0 リリース
- 2015年 01月 BOM for Windows Ver. 6.0 SR1 2015.01 リリース
- 2015年 12月 BOM for Windows Ver. 6.0 SR2 リリース
- 2016年 12月 BOM for Windows Ver. 6.0 SR2 拡張モジュール リリース
- 2018年 11月 BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2018.10.31 リリース
- 2019年 11月 BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2019.11.15 リリース

■■■ リリースノート改版履歴 ■■■

- 2019年 11月 初版

■■■ 製品表記 ■■■

本リリースノートでは、以下の製品について略称、呼称を使用する場合があります。

正式名称	本リリースノートでの呼称(略称、呼称)
BOM for Windows Ver.6.0 SR2	BOM 6.0 SR2
BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2019.11.15	本 Rollup Package
BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2018.10.31	旧 Rollup Package
BOM 6.0 マネージャー	BOM マネージャー
BOM 6.0 コントロールパネル	BOM コントロールパネル
BOM 6.0 集中監視 Web サービス	集中監視 Web サービス

■■■ 注意・制限事項 ■■■

1.本 Rollup Package が適用外となる OS、環境

以下の OS および、環境には本 Rollup Package が適用できません。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2003 R2
- Windows XP
- Windows Server 2008 および Windows Vista で、集中監視 Web サービスを実行している環境

※ 詳しくは本項の「2. Windows Server 2008、Windows Vista で集中監視 Web サービスを利用している環境について」を参照してください。

2.Windows Server 2008、Windows Vista で集中監視 Web サービスを利用している環境について

集中監視 Web サービスが動作する Windows Server 2008 または Windows Vista の環境に本 Rollup Package を適用すると、集中監視 Web サービスが起動できなくなります。これらの環境には、本 Rollup Package を適用しないでください。

3.OpenSSL の更新に伴う影響について

本 Rollup Package の適用で、対象の BOM 6.0 SR2 で使用する OpenSSL のバージョンが OpenSSL 1.0.2 シリーズから OpenSSL 1.1.1d に更新されることにより、BOM のコンポーネント (BOM マネージャー、BOM コントロールパネル、集中監視 Web サービス) と各インスタンス間の接続に以下のような影響が生じます。

本 Rollup Package は、接続元・接続先の両方に適用してください。

[接続元 (BOM のコンポーネント) 側が本 Rollup Package を適用した場合]

- 「BOM for Windows Ver. 6.0 SR2 BOM Helper ヘルパーサービス 修正モジュール」(2017 年 9 月 5 日公開) または、旧 Rollup Package が適用された接続先に繋がらなくなります。

[接続先 (各インスタンス) 側が本 Rollup Package を適用した場合]

- 「BOM for Windows Ver. 6.0 SR2 BOM Helper ヘルパーサービス 修正モジュール」(2017 年 9 月 5 日公開)、旧 Rollup Package または、本 Rollup Package が適用されていない接続元から繋がらなくなります。

4.集中監視 Web サービスにアクセスできない OS について

本 Rollup Package が適用された環境で動作する集中監視 Web サービスは、セキュリティ強化の為に、より暗号化強度の高い証明書を使用します。以下の OS はこの暗号化に対応していない為、本 Rollup Package を適用した集中監視 Web サービスと接続できなくなります。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2003 R2
- Windows XP

5.「パフォーマンスカウンター監視」で失敗と判定されるケースが増える

「■■ 機能更新/不具合修正 ■■」の「2. 「パフォーマンスカウンター監視」で監視失敗が検知されない」で実施した対応の影響により、従来は失敗となっていなかった状況において、失敗と判定されるケースが増えることが考えられます。

6.「BOM for Windows Ver.6.0 SR2 拡張モジュール」の適用について

本 Rollup Package の適用後に、本 Rollup Package には含まれない「BOM for Windows Ver. 6.0 SR2 拡張モジュール」(2016 年 12 月 22 日公開)の「BOM Report オプションの刷新」および、これに関連するレポート用テンプレート、Report オプションデザインファイル仕様書を利用する場合は、弊社 Web サイトからダウンロードした当拡張モジュールの適用後に、再度本 Rollup Package を適用してください。

既に当拡張モジュールが適用されている環境に本 Rollup Package を適用された場合は、そのまま継続して新しい BOM Report オプションを使用していただけです。

7.アンインストールで削除されないファイルについて

「BOM for Windows Ver. 6.0 SR2 拡張モジュール」(2016 年 12 月 22 日公開)を適用している場合、BOM 6.0 SR2 をアンインストールしても BOM Report オプションのファイル、デスクトップショートカットが削除されません。
これらのファイルは手動で削除してください。

8.Red Hat Enterprise Linux 7.1 以降のインベントリ情報取得について

Red Hat Enterprise Linux 7.1 以降では、インベントリ情報を取得しレポートに反映させるため、別途 OpenLMI (tog-pegasus, openlmi-tools パッケージ) をインストールする必要があります。

また、Linux 監視インスタンスが作成済みの場合は、モニタレットの更新が必要です。

9.プロセスリスト監視の除外プロセスの変更について

プロセスリスト監視のホワイトプロセス監視について、既定で除外されるプロセスが変更されることに伴い、既定の除外リスト(MxProcListMon.ini)が編集されている場合も、本 Rollup Package の適用後は新しい既定値の内容で初期化されます。

- ※ 除外プロセスの具体的な変更内容については、本 Rollup Package 同梱の「BOMW6.0SR2-RollupPackage_2018_10_31_リリースノート[第2版].pdf」を参照してください。

■■ 脆弱性対応 ■■

1.OpenSSL を更新

OpenSSL のバージョンを OpenSSL 1.1.1d に更新しました。

■■ 機能更新/不具合修正 ■■

1.集中監視 Web サービスで操作時に SQL エラーが記録される

集中監視コンソール上でインスタンスのステータス確認を“ON”“OFF”した際に、情報ログとしてデータベースに保存するメッセージが設定されていないため、エラーログが記録される不具合に対応しました。

2.「パフォーマンスカウンター監視」で監視失敗が検知されない

「パフォーマンスカウンター監視」で PDH(パフォーマンスデータヘルパー)系 API のエラーのみを監視失敗の判定に使用し、システム系エラーを考慮していなかったため、監視の失敗が正しく検知されていなかった点を修正しました。今後は、監視の際にシステム系エラーが返ってきた場合も失敗と判定されます。

3.アーカイブデータ送信(カスタムアクション)がエラーコード 0xFFFFFFFF で失敗する

カスタムアクションでアーカイブデータ送信を実行すると、ログに「アーカイブデータ送信」はコード 0xFFFFFFFF で失敗しました。」というエラーメッセージが出力され、実行に失敗する件に対応しました。

- ※ 「BomArcMailSmtp.exe」および「BomIMail.exe」を組み合わせで使用している特定の環境でのみ発生する現象であり、これらのモジュールを明示的に使用している環境以外において当不具合が該当することはありません。

■■ その他 ■■

1.AdoptOpenJDK 8 への移行を実施

BOM 集中監視コンソールで使用している Oracle Java SE 8 の商用サポートが終了することに対応するため、AdoptOpenJDK コミュニティが提供する AdoptOpenJDK 8 へ移行しました。

■■■ 公開済みモジュール (Rollup Package) ■■■

下記は弊社 Web サイトで公開済みの Rollup Package です。

本 Rollup Package には公開済み Rollup Package の内容が含まれており、別途適用する必要はありません。また、この公開済み Rollup Package が適用された環境に本 Rollup Package を適用した場合、未適用のモジュールを自動で判断し、必要なモジュールが適用された状態となる様インストールが実行されます。

1. BOM 6.0 SR2 Rollup Package 2018.10.31

公開日: 2018 年 11 月 9 日

- 当 Rollup Package の詳細については、本 Rollup Package 同梱の「BOM6.0SR2-RollupPackage_2018_10_31_リリースノート[第2版].pdf」を参照してください。

■■■ 公開済みモジュール (脆弱性対応) ■■■

下記は、弊社 Web サイトなどで公開済みの脆弱性対応モジュールです。

本 Rollup Package にはこのモジュールで対応された内容が含まれており、個別にモジュールを適用する必要はありません。またこのモジュールを適用済みの環境に本 Rollup Package を適用した場合も、自動で更新された OpenSSL への置き換えが実行されます。

1. OpenSSL 脆弱性 (CVE-2019-1559) 対応モジュール

公開日: 2019 年 5 月 7 日

- OpenSSL のバージョンを OpenSSL 1.0.2r に更新し、CVE-2019-1559 に対応しました。

■■■ 公開済みモジュール (不具合修正) ■■■

下記は弊社 Web サイトで公開済みの不具合修正モジュールです。

本 Rollup Package にはこの内容が含まれており、個別にモジュールを適用する必要はありません。またこのモジュールが既に適用された環境に本 Rollup Package が適用された場合も、必要なモジュールは自動で判断してインストールが実行されるため問題は生じません。

1. Linux オプション Ver.6.0 SR2 向け Monitorlet 修正モジュール

公開日: 2019 年 6 月 5 日

- BOM Linux オプション Ver. 6.0 で発生する以下の現象に対応しました。

perl-socket6 がインストールされた RedHat Enterprise Linux 7.x のインスタンスに対して、「Linux サービスポート監視」で監視先を「ローカルホスト」、監視設定のプロトコルを「UDP」に指定すると、実際の状況に関わらずポート状態が「閉」と検知される。

2. BOM Report オプション Ver.6.0 SR2 用修正モジュール

公開日: 2016 年 9 月 9 日

- 過去比較情報内に表示されている以下の項目で、サーバー診断結果の最大値に「全体の値の中での最小値」が表示されている不具合について、正しく「全体の値の中での最大値」が表示されるよう修正しました。
 - メモリ使用状況
 - 仮想メモリ使用状況
 - ハードディスクアクセス状況

Copyright 2019 SAY Technologies, Inc.